

名古屋港水族館の機能向上に向けた 基本構想

令和 7 年 3 月
名古屋港管理組合

目次

はじめに	1
第1章 名古屋港水族館の現状.....	2
1 建設経緯	2
2 施設の概要、特徴	2
3 経営状況	5
4 水族館の機能（4つの役割）	6
第2章 名古屋港水族館を取り巻く社会動向.....	8
1 国際的な動向	8
2 国内の動向	9
3 世界及び国内の水族館・動物園の動向	10
4 地球を取り巻く環境と名古屋港水族館の使命	10
第3章 名古屋港水族館の課題と機能向上の必要性.....	12
1 施設の課題	12
2 館内環境の課題	12
3 展示の課題	13
4 運営の課題	14
5 機能向上の必要性	14
第4章 名古屋港水族館の今後のあり方	15
1 新たな展示テーマ・コンセプト	15
2 機能向上の考え方	16
第5章 名古屋港水族館の新たな施設概要	20
1 各エリアの新たなイメージ	20
2 展示・空間演出	24
3 機能向上により得られる効果	25
おわりに	27

はじめに

名古屋港水族館(以下、「本水族館」という。)は、名古屋港の更なるにぎわいを創出して海洋文化の普及を図ることによって、多くの県民・市民等に親しまれる港づくりを推進することを目的とした施設です。

本水族館の南館及び北館の建設にあたっては、その設置目的から、愛知県、名古屋市及び名古屋港管理組合(以下「本組合」という。)の三者で3分の1ずつ負担しており、南館は1992(平成4)年10月29日に、また、北館は2001(平成13)年11月1日に開館し、令和5年度には入館者数240万人を超え、累計で5,500万人を超える方々に、レクリエーションのみならず、社会教育の場としても愛されています。

しかし、開館から30年以上が経過した本水族館は、設備や機器の老朽化や施設の陳腐化など、様々な課題によりニーズの変化に応えることが困難となっており、このままでは現在の本水族館の魅力が維持できなくなります。

他方、生物を取り巻く社会情勢も変化しており、気候変動による地球温暖化対策などの地球環境問題については、国境を越えて取り組むべき喫緊の課題となっています。

そこで、再び社会情勢やニーズの変化を的確に捉えて、これからも価値や魅力の高い施設であると感じ続けてもらうためには、基幹的な設備や陳腐化した施設の刷新などの機能向上を行う必要があると考えました。機能向上に際しては、これまでに行った健全度調査より、適切な維持管理を継続すれば、今後30年程度は良好に活用ができるとの結果に基づき、既存の施設を活用していくこととし、今般、その礎となる名古屋港水族館の機能向上に向けた基本構想の策定に向けた取組を行うこととしました。

同構想策定後は、構想実現に向けて名古屋港水族館の機能向上に向けた基本計画を策定することを想定しています。

第1章 名古屋港水族館の現状

1 建設経緯

1968（昭和43）年に本組合議会において、水族館建設について初めて質問があり、これが契機となり、本組合が1978（昭和53）年に策定した親しまれる2号地ふ頭再開発計画に基づき、ポートビルの建設や南極観測船ふじの誘致を行うなか、1984（昭和59）年名古屋市港区公職者会からの水族館建設の要請とともに愛知県及び名古屋市議会での質問も相次ぎ、建設に向けた動きが加速しました。

本組合では、水族館の建設や運営は困難と見込まれましたが、ポートビルや南極観測船ふじとの集積・相乗効果、親しまれる港づくりの推進から、愛知県、名古屋市の協力を得て、1985（昭和60）年に本組合が調査を開始し、1992（平成4）年10月29日に南館の開館に至りました。北館は2001（平成13）年11月1日に開館しました。

2 施設の概要、特徴

（1）設置目的

本水族館は、以下のような意義・目的をもって建設されました。

- ・水族に関する知識を広め、水族への親しみを深めることにより、住民の自然環境に対する意識の高揚を図るとともに健全な余暇の活用に資すること。
- ・「親しまれる港づくり」の一環として、ポートビル、南極観測船ふじに、水族館が加わることで、海への理解を深める機会を創出すること。
- ・社会教育という広い視点の新しいレクリエーションの場を提供すること。
- ・人々が海洋から受けている恩恵を理解し、未来に向けて海洋への関心を高め、水族を通じて世界的、地球的視野で考える場を創出すること。

（2）名古屋港水族館の立地

本水族館は、名古屋港ガーデンふ頭に位置し、名古屋市営地下鉄名古屋港駅から徒歩5分ほどです。周辺にはポートビル、名古屋海洋博物館、南極観測船ふじなどの観光施設があり、親しまれる港づくりの一端を担っています。



(3) 施設規模

敷地面積	約 56,000 m ²
建築面積	約 19,300 m ² (北館：約 10,400 m ² 、南館：約 8,900 m ²)
延床面積	約 41,800 m ² (北館：約 21,700 m ² 、南館：約 20,100 m ²)
構造等	鉄筋鉄骨コンクリート造 (北館：4階建、南館：3階建)
総水量	約 27,000 トン<国内最大> ※ メインプール 約 13,400 トン<国内最大> 長さ 60m×幅 30m×最大水深 12m
展示生物	南館：約 500 種 約 50,000 点 北館：4 種 20 頭
運営者	(公財)名古屋みなと振興財団(指定管理者)

※2024(令和6)年8月時点

(4) 展示テーマ

南館の展示テーマである「南極への旅」は現在の地球を面的に捉えるもの、北館の展示テーマである「35 億年はるかなる旅～ふたたび海へもどった動物たち～」は過去から現在までを時間軸で捉えるものとなっています。

ア 南館

展示テーマ「南極への旅」

南極観測船「ふじ」の航路に沿って、「日本の海」「深海」「赤道の海」「オーストラリアの水辺」「南極の海」の5つのゾーンに住む生物を中心に展示。



イ 北館

展示テーマ「35 億年はるかなる旅～ふたたび海へもどった動物たち～」

地球の時間軸を海洋哺乳類の飼育展示と、彼らが歩んできた道程など、生命進化の歴史の中で水中生活に適応し、素晴らしい知性を発達させた鯨類の世界を中心に紹介。



(5) 施設の特徴

ア 生物の展示と環境

国内最大のメインプール(約 13,400 トン)は 60m×30m、最大水深 12mという巨大な楕円形をしており、プールの端から端まで見えるほどの高い透明度を有し、水中観覧ができ、スタジアムは約 3,000 人観覧可能といった大きな魅力を有しています。

このような規模を活かすことで、生物が過ごしやすい生息環境を可能な限り再現し、鯨類の行動や能力を紹介しています。また、約3万5千匹が群れをなすマイワシのトルネード、極寒の地でたくましく生きる愛くるしいペンギンの姿を見ることができます。

イ 生物飼育を支える多くの設備

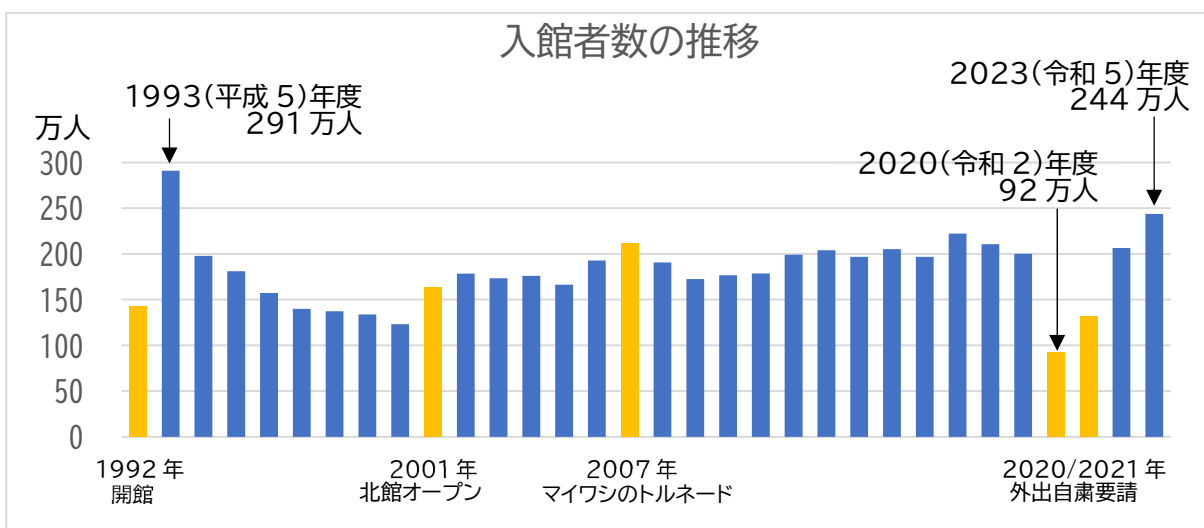
飼育水は、名古屋港の海水を利用し、ろ過設備や熱源設備等により生物に適応した水質・水温を確保しています。また空調設備や受変電設備、非常用発電設備等を稼働しています。

ウ 博物館展示

生態展示だけでなく、深海生物や絶滅してしまった生物、初期のクジラの化石レプリカ、鯨類の進化の過程などを紹介。液浸標本やジオラマによる展示なども行っています。

エ 入館者推移

南館開館翌年度に約291万人を達成し、北館のオープン後は160～220万人で推移しており、2019（令和元）年度には開館以来初となる「3年連続200万人超え」を達成しました。



オ 入館者の構成・圏域

本水族館の来館者は、個人客が約90%（団体が10%弱）です。居住地は、愛知県が約50%を占め、インバウンドは約20%（令和元年度魅力度向上調査）となっています。圏域は、自動車で2時間以内に到達できるエリアとなっており、愛知県のほぼ全域、岐阜県のみ濃エリア、三重県伊勢市より北エリア、静岡県掛川市より西エリア、滋賀県の湖西エリアを除くほぼ全域、福井県の敦賀市エリア、長野県は飯田エリア、京都府の京都市の一部と長岡京市等、奈良県は奈良市と天理市等となっています。

力 他園館との比較

本水族館の総水量は全国第1位です。また、入館者数は、全国第3位（2023年度）です。

入館者数比較

（単位：万人）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
名古屋港水族館（愛知県）	200（3位）	92（1位）	132（1位）	206（3位）	244（3位）
沖縄美ら海水族館（沖縄県）	332（1位）	60（7位）	62（11位）	216（1位）	296（1位）
海遊館（大阪府）	263（2位）	63（6位）	95（3位）	206（2位）	283（2位）

出展：日本動物園水族館年報（公益社団法人 日本動物園水族館協会）

3 経営状況

（1）維持補修費用

本水族館の補修は、現状、日常の維持修繕は指定管理者が行い、それを超える補修は本組合が行っています。近年、多くの施設や設備が更新時期を迎えており、直近5年間の本組合が負担する補修費は年平均約4億円であり、年々増加傾向にあります。

（2）入館料改定の経緯

本水族館の入館料は、2001（平成13）年11月の北館開館時に一度改定して以来、2019（令和元）年の消費税増税による改定を除くと、20年以上据え置いています。

○1992（平成4）年10月（開館時）

大人	高校生	小中学生	幼児 4歳以上	県内 65歳以上	障害者 介護者等	県内学校団体		
						高校生	小中学生	幼児
1,500円	700円	700円	0円	0円	0円	350円	0円	0円

○2001（平成13）年11月（北館開館時）

大人	高校生	小中学生	幼児 4歳以上	県内 65歳以上	障害者 介護者等	県内学校団体		
						高校生	小中学生	幼児
2,000円	2,000円	1,000円	500円	1,000円	0円	1,000円	500円	200円

○2019（令和元）年11月～現在（消費税8%から10%増税）

大人	高校生	小中学生	幼児 4歳以上	県内 65歳以上	障害者 介護者等	県内学校団体		
						高校生	小中学生	幼児
2,030円	2,030円	1,010円	500円	1,010円	0円	1,010円	500円	200円

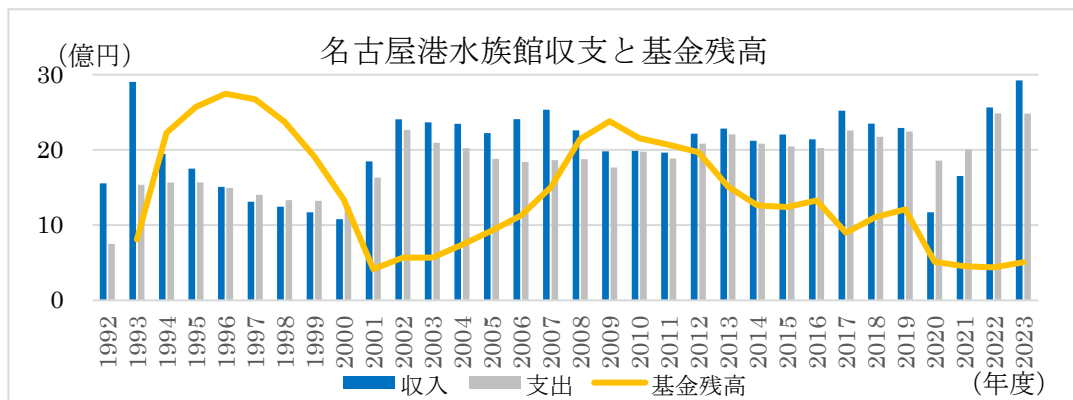
（3）収支の状況

指定管理者制度が導入された2006（平成18）年度以降、入館料収入で水族館運営を賄っています。2020（令和2）年度、2021（令和3）年度は新型コロナウイルス感染症の流行により入館者数が激減し、本組合から指定管理料を交付しました。支出は、光熱水費や人件費、委託料等の固定費が大きく占めています。

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入館者数	万人	200	92	132	206	244
指定管理事業 収入 (ア)	百万円	2,291	1,171	1,652	2,563	2,923
指定管理事業 支出 (イ)	百万円	2,245	1,857	2,003	2,485	2,482
収支差 (ウ) = (ア) - (イ)	百万円	46	▲ 686	▲ 351	78	441
本組合負担補修費 (エ)	百万円	464	226	625	113	546
事業全体収支 (ウ) - (エ)	百万円	▲ 418	▲ 912	▲ 976	▲ 35	▲ 105

(4) 基金の状況

本組合は、名古屋港水族館振興基金（以下「基金」という。）を設置しており、収支の余剰を積立して、水族の円滑な確保、展示効果の向上等、水族館の振興に資する経費に充当しています。2023（令和5）年度末時点での基金残高は約5億円です。



4 水族館の機能（4つの役割）

公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」という。）は、水族館の4つの役割を「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」としており、本水族館においては、以下の取組を行っています。

(1) 種の保存

世界唯一となる「ナンキョクオキアミの長期飼育と継代繁殖」、「アカウミガメの繁殖と保護活動」により、繁殖に係る最高の荣誉である古賀賞を2回受賞。極地ペンギン3種の繁殖、シャチ、ベルーガ、バンドウイルカ、カマイルカの出産にも成功しています。

(2) 教育・環境教育

学校団体へのレクチャーや各種教室の開催、「かんさつノート」の配布、バックヤードツアー、職場体験などの受け入れ、タッチタンクでのボランティア解説などを行い、常設の環境教育ルーム「エコ・アクアリウム」では持続可能な開発目標（SDGs）の概念をわかりやすく伝えています。

(3) 調査・研究

水族館で飼育する特殊な環境を生かし、大学や研究機関と協力して活動しています。米国スタンフォード大学等と気候変動とアカウミガメ（絶滅危惧種）の回遊経路の関係を調査研究、三重大学等とシャチの研究、スナメリ回遊調査等を行っています。

＜学術協定を締結している大学・研究機関＞

岐阜大学応用生物科学部／京都大学ヒト行動進化研究センター／京都大学野生動物研究センター／神戸大学大学院農学研究科／三重大学大学院生物資源学研究科／金沢大学環日本海域環境研究センター

(4) レクリエーション

広大なプールでシャチやイルカなどが泳ぎ、ジャンプする姿を見て生命の力強さを感じたり、ウミガメや極地ペンギン、めずらしい水棲生物や群れで動く習性を利用したマイワシのトルネードなどを見る経験を通じて、生命の不思議に触れたりしながら、楽しい時間を過ごすことができる場所となっています。

第2章 名古屋港水族館を取り巻く社会動向

1 国際的な動向

(1) 持続可能な開発目標（SDGs）

2030（令和12）年までの国際目標である持続可能な開発目標（SDGs）では、「気候変動」「海洋資源」など17の目標が掲げられています。



(2) 生物多様性戦略

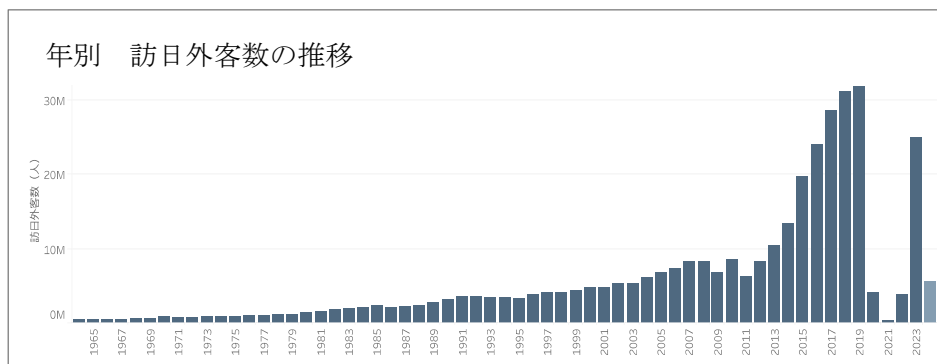
生物多様性条約及び生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の基本的な計画である「生物多様性国家戦略 2010※」（平成22年3月閣議決定）に沿った「海洋生物多様性保全戦略」（平成23年3月策定）、海洋基本法に基づく「第4期海洋基本計画」（令和5年4月28日閣議決定）などの方針が示されています。

※現行の生物多様性国家戦略は令和5年に策定した第六次戦略「生物多様性国家戦略 2023-2030」となります。

(3) 社会情勢の変化

政府はインバウンド（訪日外国人旅行）を推進しており、2016年に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、「2030年に訪日外国人旅行者数6,000万人」の目標が掲げられました。また2024（令和6）年1月30日の通常国会の政府方針演説において、改めてこの目標を目指すことが示されました。

2023（令和5）年3月31日に閣議決定した「観光立国推進基本計画」においては、2025（令和7）年までに2019（令和元）年の水準超えにすることや、世界の旅行者の約70%がサステナブルな旅行に関心があり、世界的に「持続可能な観光」への関心が高まっている傾向が示されています。



出展：訪日外客統計（日本政府観光局JNTO）

2 国内の動向

(1) 多様な人々の行動変容

ア. ノーマライゼーション等の理念の普及

障害のある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す「ノーマライゼーション」の理念に基づき、障害者の自立と社会参加の促進が図られており、バリアフリーな環境整備など、理念が普及しているといえます。また、全ての人が社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）される理念の普及に向けた取組も進んでいます。

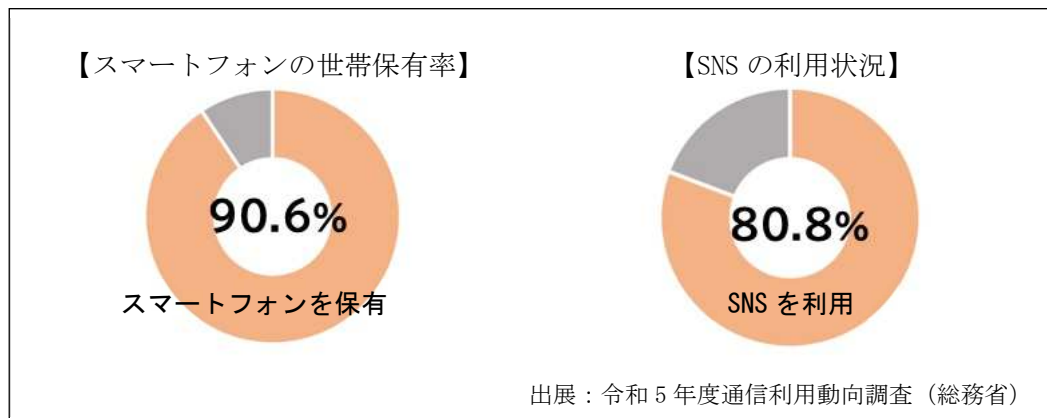
イ. 障害者基本法、バリアフリー法の浸透

障害者の人権や社会参加の支援とともに、障害者が社会や生活を円滑に行えるように、建築物や公共交通機関などの障壁を排除するための取組が進んでいます。近年は公共インフラも整ってきたことで、車いす利用者にも優しい社会になっています。社会全体でのさらなる取組の拡大が求められています。

(2) 情報源としての SNS

ア. SNS の普及割合

令和 5 年度通信利用動向調査（総務省）によると、スマートフォンは普及率が高く（約 90%）、SNS の利用率も高く（約 80%）なっています。世界でも約 60%以上の人々が SNS を利用しています。



イ. 情報源としての SNS

SNS の利用で取得する情報の種類は多岐にわたり、宣伝効果も高くなっています。即座に得たい情報が手に入るため、行動に反映されるまでの時間は短くなっている傾向があります。移動や消費の情報源にもなっており、個人にとって有益であれば SNS で発信する文化が多くの人に定着しており、国内外を問わず「人が人を呼び、付加価値が増大する」というサイクルが生まれやすくなっています。

3 世界及び国内の水族館・動物園の動向

(1) WAZA の理念と活動内容（動物福祉の変化）

世界動物園水族館協会（以下「WAZA」という。）は、動物にとって生息しやすい環境を確保し、動物園と水族館や自然での保全活動に向けた取組を進めています。また水族館及び動物園だけが絶滅危惧種の調査研究、環境教育、保護繁殖、生息地の保全などの総合的な保全活動に取り組むことができるとしています。

(2) JAZA の理念と活動内容

JAZA は、正会員（国内の動物園 89 園及び水族館 50 館）と維持会員（94 団体）で構成され※、WAZA の世界動物園水族館保全活動・福祉戦略等を踏まえて各事業の取組を支援しています。2015（平成 27）年、追い込み漁によるイルカの入手を不可としました。2020（令和 2）年には動物種ごとの適性施設ガイドラインを発表して適切な飼育環境を定義づけするなど、飼育動物への配慮が高まっています。

（※2024（令和 6）年 5 月 30 日現在）

(3) JAA の理念と活動内容

2019（令和元）年に設立された一般社団法人日本水族館協会（JAA）は、「科学的根拠に基づく水生生物資源の持続的利用の立場から水生生物の飼育展示・教育研究・保護保全活動を推進し、海洋立国である我が国の海洋教育に寄与するとともに、もって我が国固有の文化伝統の維持、科学技術の振興および自然環境の保護保全に貢献する」ことを目的としています。

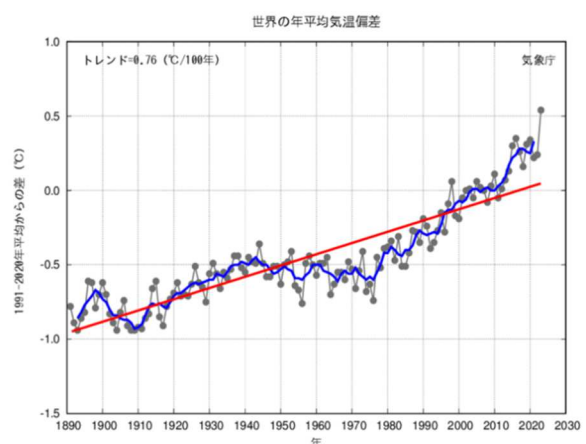
4 地球を取り巻く環境と名古屋港水族館の使命

(1) 地球環境の状況（温暖化）

最近 50 年の気温上昇は過去 100 年の上昇速度のほぼ 2 倍であり、近年になるほど温暖化が加速しています。

(2) 海洋大循環の変化（鈍化）と南極の環境変化（氷が解ける）

世界の大きな海洋循環は、南極海などで冷たくて重い水が沈み込むことで循環しているため、重い水の沈み込みが弱くなると、地球上の気候が大きく変わります。



出展：世界の年平均気温偏差（気象庁）

（３）地球温暖化による生態系の変化

地球温暖化や気候変動による急激な環境の変化は、生態系に大きな影響を与えます。国際自然保護連合（IUCN）による世界の絶滅の恐れのある野生生物のリストでは、44,000 種以上*の生物が「絶滅の危機が高い」とされ、そのうち約 15%が気候変動（地球温暖化）の影響を受けていると指摘されています。

（※2023 年 11 月時点）

（４）地球温暖化対策の必要性

気候変動への対策を取らなければ、あらゆる生態系に悪影響が及び、暴風雨や災害、食料不足や水不足など、さまざまな脅威が高まります。2015（平成 27）年のパリ協定（COP21）では、参加国すべてが温室効果ガスを削減する対策を行っていく合意がなされました。

（５）環境保全における本水族館の使命

公共水族館として以下の役割を担います。

- ・海洋文化の普及、自然環境の意識高揚を地域や海外へも発信する先導的な役割を担います。
- ・野生生物の保全の大切さ、地球環境保全の大切さを啓発し牽引していく役割を担います。
- ・環境問題や改善策など地球環境保全の大切さを伝えます。

第3章 名古屋港水族館の課題と機能向上の必要性

1 施設の課題

(1) 老朽化の状況と影響

- ・常時安定した稼働が不可欠な基幹的な設備において、経年劣化や塩害等による老朽化が進行した機器、特定フロン（R-22）を使用する冷却機器などがあります。
- ・展示水槽は、経年劣化により漏水が生じた事例があります。
- ・耐用年数が到来した水処理設備等の老朽化が顕在化しており、基幹的な設備の取替えや防水工事など大規模な補修が必要です。

(2) 飼育員の職場環境

- ・北館のシャチプール周辺で老朽化した擬岩がはく離して落下する事例があり、その危険性は産業医を含めた安全衛生委員会でも指摘されており、改善が必要です。
- ・南館のバックヤードは、多数の個水槽による配管機器類が複雑に密集しているため、飼育員の作業スペースが危険で狭隘な状況となっており、さらには結露や塩害を伴う過酷な作業環境となっているため対策が必要です。

2 館内環境の課題

(1) 混雑対策

繁忙期等は来館者が密集し、館内全体が混雑します。特に混雑しやすいのは、日本の海エリア、滞在時間が長い傾向にあるペンギンエリアです。メインプールでのイベント終了時には大変な混雑状況となります。

(2) 安全対策

観覧通路が狭く、ベビーカーや車いす利用者の安全・安心な観覧が困難になっています。また日本の海エリアの観覧通路は袋小路となっていることから、観覧者が滞留しており、安全対策が必要な状況となっています。

(3) 利便性の向上

スロープが狭く、ベビーカーや車いす利用者の声を生かした対策が必要です。トイレは、多目的トイレが奥まった位置にあるため利便性が損なわれており、男子トイレの個室が狭くベビーチェアを設置できない状況にあります。また授乳室は陳腐化しておりニーズに応えられていない状況です。館内案内は、館内ルートや自分の位置がわかりにくいこと、案内看板そのものがわかりにくいことなどが指摘されています。

(4) 飼育生物の環境

希少生物である極地ペンギンは、繁殖研究の成果により、飼育数が増加しているため、現在の動物福祉に配慮した推奨する飼育基準を満たしておらず、飼育面積の確保が不十分となっています。



【混雑対策・安全対策】

繁忙期の状況



【利便性の向上】

観覧通路のスロープ



【飼育生物の環境】

極地ペンギン

3 展示の課題

(1) 魅力付加・ニーズへの対応

来館者アンケートでは、「ふれあい」「体験」などの参加型水族館としての要望が寄せられるとともに、「ペンギンをもっと近くで見たい」「もっと多くの魚を見たい」など、もっと展示生物との距離感を近くしてほしいという意見が多くあります。

(2) 教育展示の充実

- ・社会教育施設として、海洋文化の普及のほか、喫緊の地球環境の課題である気候変動やカーボンニュートラルなど、新たな教育的な取組を啓発する展示の演出が不十分となっています。
- ・海洋環境などの教育活動や種の保存などの研究活動の取組に加え、動物福祉など、先導的な新たな教育的展示の充実が必要となっています。
- ・開館当時のデジタル技術による展示物は、経年により陳腐化・老朽化しており、現在の技術を取り入れた展示や解説の工夫が必要となっています。

(3) 動物福祉の観点の充実

動物福祉の観点から、国内外の水族館・動物園での飼育基準が見直されており、動物が不特定多数の人に触られることによる生物への負荷から、触れ合いに関する基準も年々見直されています。施設の改修や展示においては、最新の飼育基準を考慮し、生物が健康で生き生きと暮らせる環境を整え、展示の工夫を行っていく必要があります。

4 運営の課題

(1) 入館者増加策

平日や冬季など閑散時期の入館者増加への方策が必要です。

(2) 基金の増加策

今後も引き続き魅力ある施設であり続けるため、水族の円滑な確保や展示効果の向上等、水族館の振興に資する目的に利用可能となっている基金を積み増すための方策が必要です。

(3) 多様な主体とつなげる方策

本水族館の取組について、デジタル技術などにより多言語対応を始めとする様々な方法で訴求や公表をしていく必要があります。

(4) 地元連携策

県内有数の観光施設であるため、県内・市内の観光施設や関係団体との連携やガーデンふ頭再開発との連携を強化することで、賑わいや集客向上につなげ、地元の住民や企業団体からより多くの賛同を得られるよう、地元連携を深める方策が必要です。

(5) 維持管理の合理化

ライフサイクルコストが最小となるよう、維持管理の合理化が必要です。

5 機能向上の必要性

現在における水族館が、その役割を果たすためには、地球環境保全の上に成り立っている生き物の生命や海洋の生態系が気候変動により危機に瀕していることを多くの人に伝え、地球環境保全の大切さを啓発することが必要です。そして、水族館が多くの人に必要とされ、魅力ある施設であり続けるためには、老朽化した設備や館内環境を整え直して基本機能を持続的なものにする他、動物福祉に配慮した展示とするなど、現代のニーズに応えていくことが必要です。

このような中、地球環境に関する機運の高まりが世界規模となっている今こそ、新たな気づきを生み、新たな感動を生み、記憶に残してもらう時期です。地球温暖化の防止や海洋を始めとする環境問題や改善策など、地球環境保全の大切さを一人でも多くの方に伝え、啓発し、行動変容を促す時期であり、まさにそのための機能向上を行う時期といえます。

第4章 名古屋港水族館の今後のあり方

1 新たな展示テーマ・コンセプト

未来の地球環境を守るため、公共の水族館として、今ある施設を活用し、「人にやさしく、生き物にやさしく、そして地球にもやさしく」あるためのテーマ・コンセプトを設定することで、さらなる魅力向上を目指します。

(1) 新たな展示テーマ・コンセプトの背景

本水族館は、公共水族館として、人々が水族を通じて海洋から受けている恩恵を理解していただくとともに、海洋への関心を高め、海を通して世界的、地球的視野で考える機会を創出することを期待するものであり、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの役割を通して、野生生物の保全や地球環境の保全の大切さを「楽しく学ぶ」ことができる場として活用してもらうことに貢献できる社会教育施設となっています。

海は、地球の表面積の約7割を占めており、地球環境を考えるうえで非常に重要です。しかしながら近年、マイクロプラスチックなどによる海洋汚染、地球温暖化による海面上昇などさまざまな問題が起こっています。

また南極の氷は、それ自体が地球温暖化を防止する冷源の役割を担うとともに、地球を循環する大きな流れを生み出しており、南極の氷の減少が世界各地の気候に及ぼす影響は計り知れません。

このように「南極」は地球環境にとって極めて重要な場所です。本水族館で飼育している極地ペンギンは南極に生息する象徴的な生物であり、本水族館の繁殖研究活動や教育啓発活動を通して、より多くの人に野生生物の保全の大切さや地球環境保全の大切さを理解していただくために、非常に重要な役割を担っているといえます。

そこで本水族館では、地球環境保全の大切さをこれまで以上に広く深く知っていただくため、これまでの展示テーマを残しつつ、「未来の地球を守る」ための新たな全体の展示テーマを設定します。そして、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの役割をつないでさらなる役割を果たせるようにします。

(2) 新たな展示テーマ・コンセプト

新しい展示テーマ・コンセプトの設定については、過去から現在に至る「時間軸の旅」(北館)と、現在の地球の「面的な旅」(南館)を残し、地球環境の大切さを感じることができるものにしていく必要があります。

新たな展示テーマ「未来への旅～海でつながる生命、未来へつなげる生命～」

これまでの南館・北館の展示テーマを残しつつ、「南極への旅」「35億年はるかなる旅」につながり、未来の地球環境保全を考える新たな全体の展示テーマを「未来への旅」とします。



海の中にはさまざまな環境があり、その環境で生息することができる多様な生き物によって生態系が成り立っています。水族たちの姿を間近に見ながら、生命の尊さ、生命のつながり、生物多様性の大切さ、地球環境保全の大切さに気づいてもらいます。

また近年、気候変動などにより、これまでになく急速な環境の変化が生じています。現在の地球環境が危機的な状況になる前に、何ができるかを考え、行動変容を促していくことが、わたしたちの使命といえます。

新たな展示コンセプト

未来の地球環境を保全していきたい想いから、「従来の展示コンセプトを残しつつ、地球課題となっている「気候変動」を新たな視点として取り入れて深化させ、自然環境を保全して未来につなげる」ことを展示コンセプトとします。

2 機能向上の考え方

(1) 施設の機能のあるべき姿

現代のニーズにあった魅力ある施設であり続けるためには、「水族館としての基本機能」を持続的なものとして整え直すことが必要です。

「水族館としての基本機能」を持続的なものとするために、老朽化した設備や陳腐化した施設をしっかりと整え直すことが必要な状況にあります。

(2) 環境への配慮

生物の安全な飼育には、海水をろ過循環するポンプ及び飼育に適した水温や室温を調整する熱源設備が不可欠であり、生物に影響のない範囲での節減努力を行い、ランニングコスト低減に努めています。地球環境にやさしい水族館として、本水族館の設備機器の新設及び更新を行う際には、よりエネルギー消費量の少ない高効率な設備機器の導入を検討するなど、環境負荷低減への取組を進めていきます。

(3) 多様なニーズへの対応

誰もが楽しく学び、居心地のよい水族館であるためには、多様な人が利用できる環境を整える必要があるため、社会情勢の変化に即した多様なニーズに応えられるよう、これまでのアンケート結果をふまえ、改善を行います。

ア 不足する機能の改善

- ・車いすやベビーカー利用者が安全・安心に観覧できるように、スロープの拡幅や通路幅が狭い場所の解消を行います。
- ・利用者目線に立った、多目的トイレの設置場所の変更やベビーチェアの設置、授乳室の配置など、現代の多様なニーズに応えられるようにします。
- ・団体客や家族連れから要望の多い、館内の飲食スペース、持ち込み弁当を食べるスペースについて、全天候型対応で、雨の日の多目的な利用にも応えられるよう、しおかぜ広場やシネマ館など、敷地の有効利用を検討します。
- ・家族連れやカップルなど、多様な方々が思い思いに憩い、楽しみ、心地よく過ごすことができるよう、くつろげる空間を創出するなど、独特の魅力を創出します。
- ・デジタル技術を採用するなどして、南館と北館に分かれている広い館内が分かりやすくしてほしい。などという要望に応えられるようにします。
- ・車いす利用者やベビーカー利用者も観やすい水槽とするなどの工夫を行います。
- ・インバウンドの増加及び誘客を見据えた多言語対応などの対策を行います。



イ 生物との新たな距離感

- ・動物福祉に配慮し、適切な距離感を保ちつつペンギンなどの生物の様々な面を知るなど、生物への親しみと、心の距離が近づくことができるような工夫を行います。



(4) 新たな機能「つなげる」

居心地のよい空間づくりを行い魅力ある施設であり続けて、役割を多様につなげて融合することで新たな気づきと感動のきっかけを創出します。

全ての可能性をつなげて融合することで、唯一無二の水族館となり、未来の地球環境を守るための貴重な循環を創出していきます。

4つの役割

ア 種の保存

- ・飼育、繁殖など、今までの実績を踏まえながら、引き続き計画的な繁殖などにより種の保存に努めていきます。

イ 教育・環境教育

- ・実際に水族館に来てもらい身近に生き物を感じてもらうとともに、遠方の方にも、最新のデジタル技術を活用して学習の機会を提供します。
- ・水族や生態系への関心を育み、生き物が生き続けるために何ができるかなどを考えるきっかけを提供するなど、「地球環境教育」に取り組んでいきます。

ウ 調査・研究

- ・水族館で飼育する環境だからこそできる調査や研究が多くあり、様々な分野で大学や研究機関等と協力する等して引き続き調査・研究していきます。

エ レクリエーション

- ・広大なプールでのシャチやイルカの姿や、極寒の地で暮らすペンギンの姿などを見ることで生命の力強さを感じてもらい、引き続き「楽しく学べる」きっかけを充実させ、身近に学びがあることを伝えながら、生涯学習づくりに取り組んでいきます。

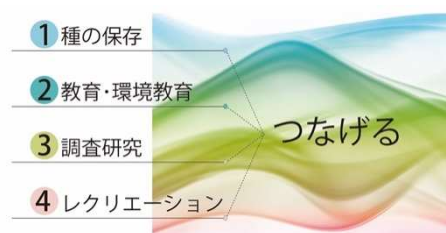
機能向上で欠くことのできない大切な要素；「心」をつなげる

多様な主体と互いにつなげあうことで地域社会への貢献につながり、賛同してくれる多様な企業ともつながり、やがて世界中の方への新たな気づきにつながります。

この取組により自然環境や地球環境への心の豊かさを取り戻し、生き物や環境と心からつながり合い、持続的発展の好循環が生まれます。

その方策につきましては、以下の5点となります。

- ・**役割をつなげる**：4つの役割をつなげることで、同じ空間にいる人が思い通りの楽しみ方、学び方、過ごし方ができるようになるなど、相乗効果が期待できます。



- ・**空間をつなげる**：通路や休憩スペースを広くし、食事をしながら観覧できる空間を創出し、それぞれの魅力が向上するように空間をつなげ、回遊性を高めるとともに、水中観覧席の背後の一部を改装するなど、くつろぎと気づきを提供する居心地のよい空間を創出します。



- ・ **多様な主体とつなげる**: 未来に向けて地球環境を守るため、多様な主体とつなげて取組を発信し合い、想いを伝えて新たなつながりを創出します。

また、ガーデンふ頭内の水族館関連施設ともつながり、エリアのつながりを強化します。



- ・ **デジタルでつなげる**: デジタル技術の活用により、国内外に向けて魅力を発信し、交流します。また、没入感に浸ることができる生息環境を演出します。



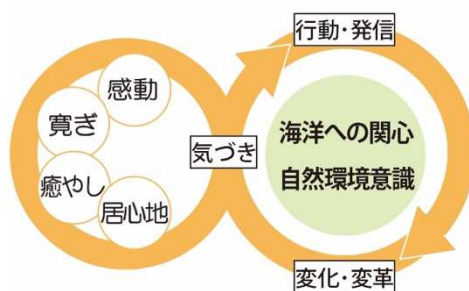
- ・ **世界へとつなげる**: 種の保存や調査・研究の取組などを世界に向けて発信・交流することで、多様な人の気づきの環が、人から人へつながって、やがて世界に広がっていく源泉になります。

(5) 環境保全への意識の育み

機能向上によって、多様な展示方法や観覧方法を通して楽しく学ぶことができる他、滞在型的水族館として水族と親しむ時間が増えます。

また、本水族館で水族を通じて「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」という経験を通して、新たな気づきが生まれます。その気づきや感動をきっかけとした地球環境の大切さを知るという学びは、「興味」という知の源泉を経て「環境」についての興味・関心の広がりとなり、人から人へとつながっていきます。

未来の地球の姿は、私たち一人ひとりが今、どのような行動をするかにかかっています。そのためにも、生き物が生息する環境やその変化の実態を知ってもらい、一人でも多くの方に自分ごととして捉えていただき、「どうしたらもっと良くなるだろうか」と思ってもらえることが、未来の地球環境を守ることにつながります。思うことは、行動の第一歩になります。未来の地球環境を守るための改善策について、より多くの人と一緒に考えていきたい。その強い思いを伝えていきます。



第5章 名古屋港水族館の新たな施設概要

1 各エリアの新たなイメージ

機能向上の考え方で示した、『施設の機能のあるべき姿』、『環境への配慮』、『多様なニーズへの対応』、『新たな機能「つなげる」』、『環境保全への意識の育み』を踏まえ、限られた資源を最大限に活用し、課題解決を行った上で、これらが融合し相乗効果を発揮するような配置計画に向けた各エリアの新たなイメージを検討します。

(1) エリアごとの課題と課題解決エリアの選定

配置計画に向けては、課題解決を図るべきエリアを以下のとおり選定し、その課題解決を図りながら、施設全体の魅力を高めていきます。

【エリアごとの課題】

ア 水族館全体

- ・展示テーマや展示コンセプトを知ってもらう方策が必要
- ・人流が分散するような混雑緩和策が必要
- ・狭い通路の解消など、誰もが利用しやすい施設とする安全対策が必要
- ・利便性や魅力を向上させ、質の高いサービスを提供することが必要
- ・天候を気にすることなく休憩できるスペースが必要
- ・トイレや授乳室はニーズに合った改善が必要
- ・環境教育の更なるスペースが必要
- ・館外の回遊性へとつなげる方策が必要
- ・わかりやすい館内サインに統一し、多言語に対応することが必要

イ 南館

① 2階 日本の海

- ・水処理設備等の老朽化した設備の一体的な取替えが必要
- ・バックヤードのスペースが狭く、滑りやすいなど作業環境の改善が必要
- ・狭い観覧通路やボトルネックなど混雑緩和が必要
- ・車いすやベビーカー利用者が安全・安心して観覧できる対策が必要

② 深海、赤道の海、カメ回遊水槽、オーストラリアの水辺

- ・他エリアとも共通した課題として、繁忙期などにおける混雑緩和策が必要

③ 3階 南極エリア（ペンギン飼育施設含む）

- ・生産が終了した特定フロア（R-22）を使用した熱源設備やメンテナンスが極めて困難な生物用空調設備の一体的な取替えが必要

- ・狭い観覧空間の混雑緩和が必要
- ・狭い観覧スロープの改善が必要
- ・ペンギンの不足する飼育面積や環境を、最新の飼育基準に対応することが必要
- ・配管の凍結による、バックヤードの結露や観覧面への影響を解消する必要

ウ 北館

- ① 2階水中観覧席、シャチ・イルカ・ベルーガプール
 - ・プールからの漏水に関する対策が必要
 - ・シャチプール周辺ではく離して落下した擬岩の対策が必要
 - ・水中にいるかのような魅力を高め、ゆっくり観覧できる場所を確保するなど滞在型水族館とする対策が必要
- ② 一般観覧エリア
 - ・没入感や高揚感を演出する方策が必要

【課題解決エリアの選定】

課題解決エリアの選定については、複数の課題のある、

- 水族館全体
- 南館 日本の海
- 南極エリア（ペンギン飼育施設含む）
- 北館 2階水中観覧席、シャチ・イルカ・ベルーガプール

以上の4つのエリアを選定することとしました。

これら課題のうち、《人流分散》や《全天候型休憩スペース》、《環境教育のスペースの確保》、《館外への回遊性》、《狭い観覧通路》、《スペースが狭いバックヤードの改善》、《ペンギン飼育展示面積の不足》は各エリア内での課題解決が困難で、面積の確保が必要です。

そのうち、生物の生命維持や安定した飼育展示の観点により、特に重要度の高い南極エリア（ペンギン飼育施設含む）から課題の解決を図ることとし、そのために、十分な面積がありながらも利用頻度の低くなっている屋外のしおかぜ広場の有効利用を考えます。



【しおかぜ広場】

（２）各エリアの新たなイメージ

限られた資源を最大限に活用し、空間を多様につなげるにより、課題解決に加え、多様なニーズへの柔軟な対応や、より質の高いサービスの提供の実現を目指した各エ

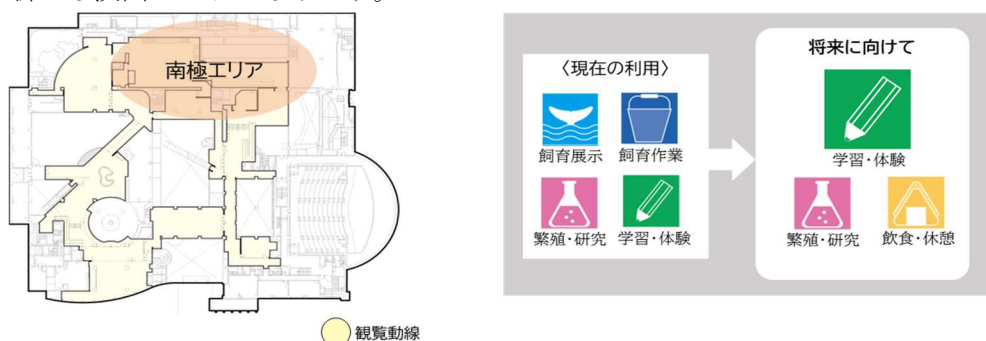
リアの新たなイメージを設定します。

① 南館3階 南極エリア（ペンギン飼育施設含む）

飼育面積が不十分なペンギンの飼育施設は、現在の館内では飼育面積の確保が極めて困難であるため、屋外のしおかぜ広場の有効利用の中で代替飼育展示施設の検討を行います。

新たな南極エリアでは、誰にもやさしく、南極を通じて地球環境を学ぶエリアにするため、老朽化した施設を整え直したうえで、誰もが学べる研究所(ラボ)や気候変動などについて学べる展示や空間の併設などの学習体験機能を拡充することや南極に関する研究発表により、野生生物の保全や地球環境の保全の大切さを臨場感と感動をもって体験できるエリアの創出に取り組みます。

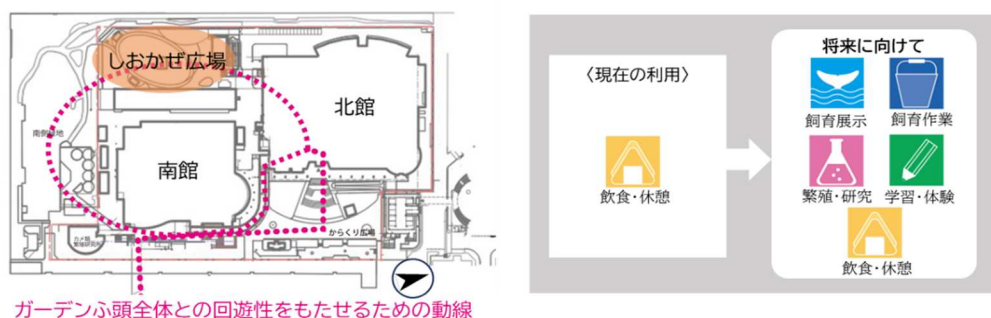
また、本水族館が誇る繁殖研究成果の一つであり、世界で唯一長期飼育と継代繁殖を実現しているナンキョクオキアミに始まる生態系に関する展示や空間を、新たな演出によりつなげます。



しおかぜ広場では、広さを活かし、動物福祉に配慮した推奨する飼育基準を満たす新しいペンギン飼育展示や繁殖・研究を行うエリアとします。

また、室内飲食スペースを併設することで、天候を気にすることなく団体でも利用できる休憩や飲食を楽しむ空間となるよう、利便性の向上に取り組みます。

更に、広場全体の広い空間を活かした施設を作り、新たな出入り口を設置することや南極観測船ふじなどのガーデンふ頭とのつながりを感じられる展示などにより、空間をつなげることで、ガーデンふ頭全体との新しい回遊性を持たせます。



これにより、混雑緩和や施設の老朽化対策、また、飼育作業環境の改善、社会情勢の変化に即した多様なニーズに応える学習・体験空間の創出が可能となります。

② 南館2階 日本の海エリア

日本の海エリアでは、伊勢湾を始めとする日本の海で生息する水族を通して、野生生物の保全や地球環境の保全の大切さを感じるための学習の起点となる空間とします。

多様な方に環境保全に対する取組を知っていただくために、陳腐化した水槽の集約などを行い、通路を拡幅することや、しおかぜ広場の有効利用により人流が分散することで、十分な観覧空間を確保します。



これにより、観覧スペースの混雑緩和や、誰もが安全・安心して観覧できるようになる他、設備が集約されるため、適切な飼育作業スペースが創出され、多様な展示や観覧方法を実現することで、より魅力的な新しい日本の海エリアとなります。

③ 北館2階 水中観覧席、シャチ・イルカ・ベルーガプール

水中観覧席では、日本最大のプールを活かし、水中ならではの良さや水中でしか見られない独特の光景を感じていただくと共に、休憩空間の併設などにより、思い思いにくつろげる空間を創出します。

また、本水族館における多様な繁殖・研究の取組を、居心地の良い空間の中でくつろぎながら知ることができる新しい展示に取り組みます。

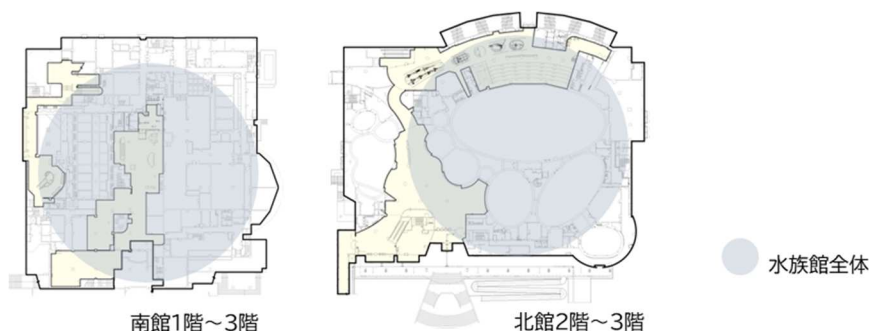
シャチ・イルカ・ベルーガプールでは、生息環境により近づける取組の推進によって、野生本来に近い姿、行動を引き出して、飼育生物の生態などをより効果的に観覧していただくことにつながります。



これにより、観覧方法の多様化や、くつろぎの空間が創出され、シャチ・イルカ・ベルーガをより身近に感じられます。

④ 全館 水族館全体

共通基幹設備*や、アメニティを含む水族館全館で、老朽化した設備を一体的に更新し、社会情勢の変化に即した多様なニーズに応え、環境に配慮した水族館へ整え直します。



これにより、より質の高いサービスを提供することができ、誰もが何度でも訪れたくなる水族館になります。

※ 共通基幹設備：取水排水設備、ろ過循環設備、熱源設備、電気設備等の、生物を飼育展示するために不可欠な常時安定した稼働が求められる設備のこと。

2 展示・空間演出

「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」の水族館の4つの役割が融合し、相乗効果を発揮するために、海への理解や生き物と人をつなぐ展示・空間演出を行い、既存施設を活用しつつ、更なる魅力の向上を目指します。

解決すべき展示の課題は次のとおりです。

- ・生物の様々な面を知ることのできる方策が必要
- ・教育・環境教育に関する展示の拡大が必要
- ・分かりづらい館内の案内看板の改善が必要
- ・思い通りのニーズに合った館内ルート案内が必要
- ・団体や、外国からのお客様など、多様な主体に柔軟に対応できる施設や案内の改善が必要
- ・生物に関する貴重な研究の取組を知ってもらう方策が必要

以上の課題を解決することに加え、唯一無二の魅力創出のため、以下の展示・演出を検討します。

- ・生き物を間近で観察することや、標本、模型などを使用し、楽しく学べる展示
- ・五感に訴えかけ、没入感に浸ることができる独特な魅力ある展示

- ・滞在しながら生き物を観覧できる、居心地の良い空間を演出
- ・最新デジタルを使用することで、多言語化など、様々なニーズに対応し、多様な方へ伝え、多様な場面をつなげる展示
- ・気候変動・カーボンニュートラルなど、教育的取組を啓発することで、未来を知って地球をまもるための展示・空間

3 機能向上により得られる効果

公共の水族館として、今ある施設を活用し、「やさしい水族館」「滞在型水族館」「つなげる水族館」「親しむ水族館」「楽しく学ぶ水族館」を実現します。

だれもが

やさしい水族館

…多様なニーズへの対応や安全な職場環境の確保、情報機器の活用による緊急時への対応により、利用者にも、働く人にもやさしい水族館となります。

居心地よく

滞在型水族館

…混雑の緩和や来館者による自由な動線、くつろぎながら観覧できるスペースの創出などにより、居心地のいい滞在型水族館となります。

つながりあい

つなげる水族館

…情報を発信・交流し合い認知が拡大することにより、多様なつながりを通じて好循環を生む、つなげる水族館となります。

水族に親しみ

親しむ水族館

…生息する環境を身近に感じられる飼育環境の展示や種の保存への貢献により、動物福祉に配慮しつつ、新たな距離感で生物を身近に感じられる、水族に親しむ水族館となります。

楽しく学ぶ

楽しく学ぶ水族館

…様々な体験を通じて楽しく学ぶ水族館となります

この機能向上により、「だれもが」「居心地よく」「つながりあい」「水族に親しみ」「楽しく学ぶ」ことが可能になり、さまざまな人が何度でも訪れたくなる水族館となります。さらに、「未来への旅」を展示テーマとした水族館として、新たな機能で「つなげる」

ことにより、新しい気づきや感動を創出し、多様な主体の行動変容を促すことで、「未来の地球環境をまもる」ことにつながります。

そこでの気づきや感動を、多様なつながりを通じて広く知ってもらうことで、本水族館の持続的発展の好循環の創出につながるものと考えます。

おわりに

〔機能向上の実現に向けて〕

本水族館は、公共の水族館として、生物の種の保存や繁殖研究、教育活動などの公的
使命を引き続き果たしていく一方で、来館者にとって魅力的な施設であり続けるため
には、限られた資源を最大限に活用し、多様なニーズへの柔軟な対応や、より質の高いサ
ービスの提供を実現することが重要であると考えます。

機能向上の実現に向けた方策については、民間活力の導入や運営の課題の解決なども
含めて他園館などの先進事例なども参考にしながら、本水族館にとって最適な方策とな
るよう、幅広く検討していきます。